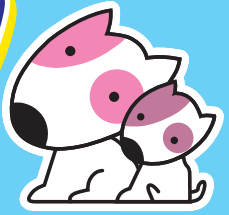


ペット・ママが
お答えします!

ペットが じょうずに撮れる コツ

プロ監修!!



① フラッシュを使わない!

カメラに付いているフラッシュ機能。オートモードで撮ると、暗くても自動的に発光してくれるので大変便利な機能なのですが、フラッシュを光らせると、まぶしいので嫌がるペットがほとんど。なかには、カメラを向けるだけで嫌がり、その後カメラを向いてくれなくなってしまふこともあります。これではせっかくのかわいい表情が撮れなくなってしまいます。
ペットを撮るときは、フラッシュを発光禁止モードにして撮影しましょう! ただし、部屋が暗い場合はシャッターが遅くなりブレますので窓際などを利用して撮影しましょう。

② 動きを止めましょう

ペットが動きまわっている時に写真を撮るのは至難の技です。ペットの動きを止めるために一番効果が高いのがおやつです。見せるだけでとびかかってくるペットもいますが、「おすわり」や「まて」などで動きを止めましょう。音の出るおもちゃなどで気を引くのも効果的です。軽く運動をして遊んであげ、ペットが落ち着いてから撮影すると撮りやすくなります。

③ ピント合わせのコツ

かわいい瞬間をねらうために、必ずシャッターボタンの半押しをしましょう。シャッターは「今だ!」と思ってあわててボタンを押しても、すぐに切ることができません。
まずは半押し(AFロック)にしてそのままの状態待ち、表情などの良い時をねらってそのままシャッターを押しましょう。これだけでかわいい瞬間がねらいやすくなります。

④ 背景は?

家の中で撮影をする時、ついペットにばかり集中してしまっていて背景に余計なものが写り、ごちゃごちゃとした写真になってしまうことがありますか?
少し難しいかもしれませんが、背景にも気をつけて撮影してみましょう。ソファやベッドに乗せるなど、できるだけシンプルな背景にすると、簡単にスッキリきれいな写真が撮れます。
慣れてくれば、ポイントに小物を置くなど、家の中のものを上手に利用して、ごちゃごちゃしない程度の背景を作り撮影してみてください。

⑤ アングルを変えてみましょう

ペット写真に多いのは、斜め上から撮った写真。ちょっと視点を変えて、カメラはペットの目線で構えてみましょう。斜め上から構えた時に比べ、頭と体のバランスが良くなり、ペットの表情も良く見えるようになります。
また、ペットがいつも見ている世界と同じ視点で撮ることで、普段見る世界とは違った、新鮮な写真が撮れるでしょう。
ペットの目線ではありませんが真上から撮るのもおもしろいですよ。背景がすっきりとし、ピントも合いやすくなります。

⑥ 逆光でGO!!

写真は光の当たり方によって雰囲気全く違ったものになります。通常写真は順光^{※1}で撮りますが、逆光^{※2}での撮影にもチャレンジしてみてください。例えば、窓越しで逆光をうまく利用することにより、毛なみをキレイに出してみましょ。レースのカーテン越しだと光がやわらかくなり、キレイに撮れます。この時顔が暗くなりやすいので注意が必要です。できるだけ大きく撮ることで顔が暗くなるのを防ぎましょ。また露出補正があるカメラなら、+1.5くらいにし、暗くなるのを防ぎましょ。

※1 被写体の正面から光がさしている状態 ※2 被写体の後から光があたっている状態

これであなたも
名カメラマン!!



ペット・ママオリジナルグッズ
写真持ち込みでお作りします。



くわしくは店頭チラシをご覧ください。

応募用紙

応募締め切り 7月4日(日)

●ペットのお名前

●タイトル

●お客様のお名前

●ご住所

●ご連絡先 (TEL)

応募受付店

備考欄

ペット・ママ福島鎌田店
福島市鎌田字下釜8-1
TEL (024) 553-5900

ペット・ママ南福島店
福島市黒岩字堂ノ後68
TEL (024) 544-2588

ペット・ママ郡山安積店
郡山市安積3丁目165
TEL (024) 937-2410